

院長独裁、利益優先、患者退院させず

虐待の神戸の精神科病院 不適切な拘束、医師が容認

実地指導の際には、拘束を解いたり、看護師の人数を増やしたり



看護師らによる入院患者への虐待事件があった神戸市の精神科病院「神出（かんで）病院」で以前働いていた看護師が共同通信の取材に応じ、「患者への不適切な身体拘束や隔離を医師が容認していた」「院長の経営が独裁的で、病院の利益のためベッドを埋めておこうと、患者を退院させなかった」などと証言した。

対応が難しい認知症患者の受け入れが増え、現場に余裕がなくなったことが拘束や隔離、虐待を招いた一因になったと指摘。

神戸市の定期的な実地指導の際には、拘束を解いたり看護師の人数を増やしたりして、指導を免れていたことも明らかにした。

神出病院は取材に対し「個別の質問に答えるよりも、市に提出した業務改善計画に沿って再発防止の取り組みを進めることが信頼回復の近道と考えている」と回答した。

虐待事件があったのは、重度の患者が入院する病棟。遅くとも2015年から患者への暴言や暴力が頻繁に行われていたとされる。取材に応じた看護師は「看護師長が虐待のやり方を部下に教え、看護部長も虐待を黙認していた」と証言。

逮捕、起訴された元看護師ら6人の公判で有罪と認定された行為の一部について、院長は必ずしも虐待とは言えないといった認識を周囲に示していたという。

精神保健福祉法では、「患者に自殺や自傷の恐れが切迫している」「代替の手段がない」といった条件を満たし、医師が必要と判断した場合のみ、拘束や隔離が認められているが、この病棟では医師の指示に基づかない拘束などが常態化。

必要ないのにベルトで患者を車いすに固定したり、扉が開かないよう外から粘着テープを貼って一部屋に複数の患者を隔離したりしていたが、医師が「閉じ込めておいて」などと容認していたという。

「利益を優先する院長の方針のため、建物が老朽化して雨漏りする病室もあったのに、放置されていた」とも明かし、「再発防止のためには、病院の経営方針が変わらなければ駄目

だと思う」と話した。

態勢取らず認知症受け入れ 精神科に5万人入院

取材に応じた神出病院の元看護師は、虐待がエスカレートしたのは認知症や高齢の患者が増えた頃だったと証言した。精神科病院に入院する認知症患者は全国で約5万人。介護施設などで受け入れを断られたケアの難しい認知症患者が精神科病院にたどり着き、不適切な対応が原因でさらに行動が激しくなり、拘束や隔離につながるという悪循環が浮かぶ。

「病院が十分な態勢を取らないまま、他の病院が手に負えない患者でも利益のためどんどん受け入れたため、負担は全部、現場に回ってきた」。元看護師によると、虐待事件のあった病棟では2018年ごろから認知症患者のほか、身体疾患と精神疾患を併せ持つ高齢者が増えた。

点滴を抜いてしまう人、昼夜逆転で夜中に歩き回り転倒する人、他の患者の持ち物を取ってしまう人…。対応が追い付かず、転倒を防ぐため車いすに固定したり、部屋から出ないように病室の扉に粘着テープを貼ったりする不適切な対応につながっていったという。

厚生労働省によると、17年時点で全国の精神科病院に入院する約27万8千人のうち、約5万2千人は認知症患者で、2割近くを占める。元看護師は「同じことは他の病院でも起こり得ると思う。あの状況でどうすればよかったのか、教えてほしい」と話した。

事前に通告した市の実地指導の際は実態隠し 神戸市「事実なら問題」

神戸市の神出病院の元看護師が「病院は市の実地指導の際に不適切な実態を隠していた」などと証言したことについて、神戸市保健所保健課の担当者は「事実であれば問題だ。今後は職員、患者への聞き取り調査の時間を増やす方針なので、その中で注意を払っていきたい」と話した。

市は精神科病院に年1回、定期的の実地指導をしているが、事前に通告した上での調査のため、病院側が実態を取り繕うことも可能。法律では抜き打ち調査の権限もあるが、担当者は「病院との信頼関係が損なわれるので、簡単にはできない」としている。

神出病院の患者虐待事件 神戸市西区の精神科病院「神出病院」で、逆さにした手すり付きベッドを入院患者にかぶせて閉じ込めたり、患者の陰部に塗ったジャムを別の患者になめさせたりしたなどとして、今年3月、監禁などの容疑で元看護師ら6人が逮捕された。うち1人が別の事件で逮捕され、虐待の動画が見つかったことで発覚。神戸地裁で3人が実刑、3人が執行猶予付き有罪判決を受けた。同病院は大阪、兵庫で病院や介護施設などを展開する「錦秀会グループ」の一つ。